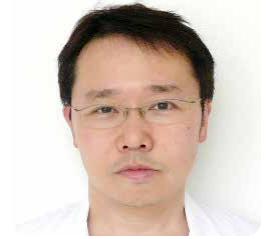


不整脈治療② ～工夫を凝らした当院独自のアブレーション治療～



循環器内科副部長 鈴木 篤

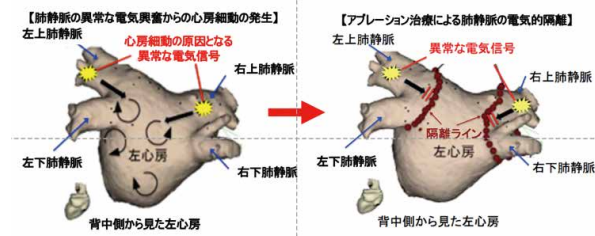
前回に続き不整脈のお話です。今回は、我々が得意とする**心房細動**の治療についてお話をさせていただきます。

心房細動って？

心房細動は、心房の収縮が不規則になる不整脈です。進行すると心臓内に血栓を生じ、碎けながら脳に飛び**多発性**の脳梗塞を起こし得ます。心機能が悪化して心不全になることもあり、**認知症**のリスク上昇(1.42倍)も報告されているので、しっかりと治療が必要です。心房細動は高齢者に多いですが、若い方でも起こり得ます。症状は**ドキドキする動悸**や、**めまい・ふらつき**、更には**足のむくみ・息切れ・呼吸困難**などがみられることもあります。一方で**無症状**の人も約半数です。で、日頃から検診などを受けておくことが大切といえます。

心房細動の治療は？

血液をさらさらにして血栓をできにくくする**抗凝固薬**は脳梗塞予防に重要ですが、心房細動そのものを治すには、**カテーテルアブレーション治療**が重要となってきます。心房細動は早期発見と早期のカテーテルアブレーション治療で成績が良く、初期の心房細動(発作性心房細動)の場合9割以上の方が治ると考えられます。その理由は、初期の心房細動は多くが心臓の端の**肺静脈の隔離治療**だけで治るからです。



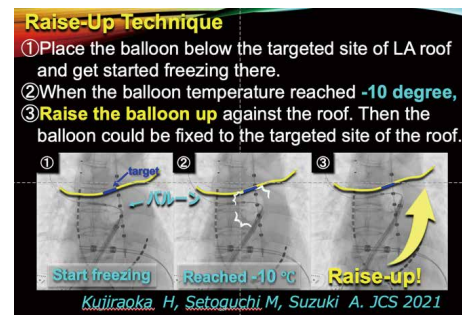
一方で、病状の進行した持続性心房細動のカテーテルアブレーション治療は病院によって治療方法がかなり異なり、一般的な成功率は50-60%にとどまっているのが現状です。治療が難しくなる理由は、肺静脈の隔離だけでは治らないケースが多いからです。

そのような中、当院では**持続性心房細動**に対

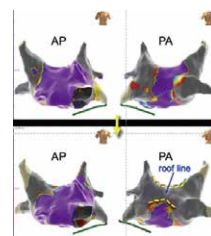
し、独自の治療で成功率80%以上と良好な成績を維持しています。

当院独自の治療法：Raise Up Technique

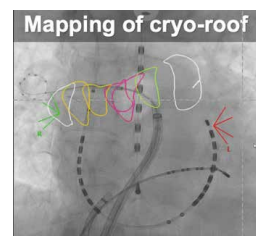
この独自の治療というのが、**クライオアブレーション**という冷凍するバルーンを用いた治療の応用で、バルーンを駆使して**ルーフラインアブレーション**を行います。ルーフラインアブレーションとは不整脈の起こりやすい心臓の天井から後ろの壁(後壁)に焼灼を加え、より不整脈を出にくくする治療です。この治療の原型は2017年頃から国内外で報告がありましたが、2019年に当院が報告した“Raise Up technique”によりそれまで90%前後であった成功率が95%~100%へと一気に上昇しま



した。もともとクライオアブレーションは安全なことが知られている治療ですが、この新しい方法により従来治療が難しいとされていた持続性心房細動に対し、安全かつ高度の治療が可能となりま



Raise-up前後の3Dマッピング



クライオバルーンによる Roof line作成時の3Dマッピング

した。現在この我々の治療が国内の多くの病院から注目され、全国各地で講演をさせて頂いております。心房細動で困っている方がいらっしゃいましたら、いつでも当院へご相談ください。次回はその他のアブレーションの工夫についてお話をさせていただきます。